様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　５ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ００４５０

研究課題名（和文）アメリカ演劇における家族表象の歴史的変遷と文化的多様性に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the History and Cultural Diversity of the Representation of Family in American Drama

研究代表者
岡本　太助（Okamoto, Tasuke）

大阪大学・大学院人文学研究科（外国学専攻、日本学専攻）・准教授

研究者番号：９０５２３１７６

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、アメリカ演劇における家族表象の歴史的変遷および文化的多様性を具体的に分析し、本質論的な「アメリカの家族像」に還元されない、ダイナミックな相互作用のプロセスとして、アメリカの家族劇を再定義することを試みるものである。理想の家族像に接近する求心的運動とそこから遠ざかろうとする遠心的運動のつばぜり合いとしてアメリカ演劇を特徴づける研究には類例がなく、今後、国内外での研究の発展が期待される領域であり、その理論的・方法論的基礎を整備するものとしての本研究課題には、学術研究上きわめて大きな意義があるといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
これまでも、北米地域研究やアメリカ合衆国を中心とする国際関係に関する研究において、アメリカとはいかなる場所であるかを明らかにしようとする努力が重ねられてきた。一方で、しばしば演劇は社会のあり方やそこに生じる変化を映し出すメディアであるとも言われる。つまりアメリカ演劇は、アメリカとは何かという問いを探るうえで、きわめて重要な研究対象であるということだが、本研究課題は、理想的なアメリカの家族という概念を中心に、そこへ近づこうとする動きとそこから遠ざかろうとする動きが交錯し、緊張が生じる場として演劇を捉えることで、一つの有効なアプローチを提示するものである。

研究成果の概要（英文）：This research project aims to redefine American drama as a dynamic process of interaction between the centripetal movement toward some preconfigured notion of the "ideal American family" and the centrifugal one away from that ideal. In order to do this, this research addresses the problems of American drama's representation of American family both in terms of its historical mutability and cultural diversity. This approach has made this study unique and unparalleled, and since this study provides an indispensable theoretical and methodological basis for a field that is expected to be further explored both in Japan and abroad, it makes a great contribution to the overall study of American drama.

研究分野：アメリカ演劇

キーワード：アメリカ演劇　家族表象　歴史的変遷　文化的多様性

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

## １．研究開始当初の背景

21 世紀に入り、アメリカ文学研究の分野では、「アメリカ文学」とは何かを再定義しようとする動きが顕在化した。それは、アメリカ文学に固有の性質をリストアップするという演繹的手法ではなく、アメリカ文学が生み出される場所や条件を具体的に拾い上げることで帰納的にその特徴を描き出すものである。本研究課題もまたこの問題意識と方法論を共有し、演劇が描き出す「家族」の有様の歴史的変遷という通時的要素の分析と、その文化的多様性という共時的要素の分析とを組み合わせることで、アメリカ演劇ならではの性質が生み出される様を帰納的にあぶり出す試みとして想定された。

## ２．研究の目的

本研究課題においては、上述のような通時的分析と共時的分析の組み合わせにより、アメリカ演劇の「本質」としての「アメリカ的家族像」を想定することなく、演劇をアメリカの家族像を作り出すダイナミックなプロセスとして捉えることを目指した。つまり、「アメリカ的家族像」に即して作られたものであるという理由で特定の作品をアメリカ演劇としてカテゴライズするのではなく、一方にはそうした観念的な理想像に近づこうとする求心的運動があり、他方にはそこから遠ざかり自らを差異化しようとする遠心的運動があると仮定し、そうした異なるベクトルの間の相互作用において絶えず変化し、自らの外延を描き直すようなものとして、アメリカ演劇を再定義することを試みたのである。言い換えれば、アメリカ的家族像はアメリカ演劇を特徴づける不変の定数なのではなく、常に差異と多様性を生じさせるような変数であることを、個々の作品の分析のみならず作品同士の関係性とその歴史的・文化的コンテクストの分析も併用することで、具体的に立証しようとするのが、本研究課題の主たる目的であった。

## ３．研究の方法

本研究の遂行にあたっては、予備的な手続きとして、作品テクストや理論書をはじめとする各種文献資料の収集と整理、およびその精査を行った。次に、資料の精査により明らかになった事実を報告し、それを本研究テーマの観点と結びつけ考察した成果を公開するために、学会、研究会およびシンポジウムなどの場で口頭発表を行った。さらに口頭発表の内容を論文としてまとめ直し、学術誌への投稿論文および研究書の掲載論文として刊行した。個々の研究成果は必ずしも直接的に家族表象というテーマに関連するものではないが、コミュニティ形成や社会、さらには国家としてのアメリカについて語る言葉や用いられるレトリックそのものに、家族をモデルとする概念が抜きがたく結びついていることを明らかにする点において、これらの研究は本研究課題の中心テーマと共鳴するものであるといえる。

## ４．研究成果

上記２の研究の目的に述べたとおり、ステレオタイプ的「アメリカ的家族像」を批判的に検討することを目指し、同３の研究の方法にあるように、主にシンポジウムの場で研究報告を行った。必ずしも本研究課題のテーマに直接関わりのあるものばかりではないというシンポジウムの性質上、「家族」という概念をある程度拡大解釈して用いる必要が生じたが、その結果としてむしろより効果的に「アメリカ的家族像」を相対化し、その歴史的変遷と文化的多様性について当初想定していなかったような視点を得ることができた。特に、法的・社会的カテゴリーあるいは制度としての「家族」というミクロなレベルについての議論を、演劇という媒体を経由することで、アメリカ社会あるいは国家といったより大きな共同体についての議論と接続するための具体的な方法を発見し、実践できたことが大きな成果であった。

　各年度の具体的な成果については、以下のとおりである。

（１）令和元年に始まる初年度には、研究テーマ全体に関する資料の収集および精査を集中的に行った。個別の研究成果としては、日本アメリカ演劇学会での講演（8 月 24 日）、九州大学言語研究会例会での報告（10 月 3 日）および日本英文学会九州支部大会での招待発表（10 月 27 日）において、アメリカン・ミュージカルにおける家族・家庭・コミュニティなどの表象とその問題点について発表を行った。劇作家スーザン＝ロリ・パークスについても、九州アメリカ文学会大会での研究発表（5 月 11 日）および大阪大学での招へい准教授としての講演（8 月 26 日）を行った。

（２）二年目の令和２年度には、引き続き資料の精査を行い、前年度に行った一連の口頭発表を「ブロードウェイ・ミュージカルにおける人種とコミュニティ」という論文としてまとめ、『九州英文学研究』第 37 号に慫慂論文として掲載された。また、アメリカ演劇と小説に加え日本の

現代小説も比較対象として取り上げ、「構造化されるジェンダースケープと女性嫌悪のディストピア」と題して、日本アメリカ文学会関西支部フォーラムにおいて報告した（12 月 5 日）。その他にも学会発表および論文投稿を予定していたが、コロナ禍による中止や発行停止により断念せざるを得なかった。

（３）三年目の令和３年度には、学会における研究発表（すべてオンライン開催）を集中的に行った。日本アメリカ演劇学会大会シンポジウムでは劇作家サラ・ルールを家政学という視点で論じた（8 月 28 日）。日本アメリカ文学会全国大会シンポジウムでは、アメリカの主要な劇作家たちに見られるパーソナルなものとパブリックなものの関係性を「連続体」として概念化した（10 月 3 日）。日本英文学会九州支部大会シンポジウム（前年度から延期となっていたもの）では、エイズ禍とニューヨークにおけるコミュニティ形成についての報告を行った（10 月 16 日）。日本演劇学会例会シンポジウムでは、ラティーノ演劇におけるホームの再生に関する発表を行った（12 月 5 日）。

（４）令和４年からの最終年度には、前年度に行った発表（10 月 16 日のものと 12 月 5 日のもの）を組み合わせ敷衍する内容で、日本アメリカ演劇学会大会シンポジウムにて報告を行った（8 月 27 日、オンライン開催）。さらに、パンデミックと演劇におけるコミュニティ形成の関係性を論じた一連の発表を元に、論文「分断の時代における連帯という逆説――エイズ禍とアメリカ演劇」を執筆し、藤野功一編著『都市と連帯――文学的ニューヨークの探究』（開文社出版、2023 年 3 月 31 日）に収められた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>岡本　太助 | ４．巻<br>37 |
| ２．論文標題<br>ブロードウェイ・ミュージカルにおける人種とコミュニティ | ５．発行年<br>2021年 |
| ３．雑誌名<br>九州英文学研究 | ６．最初と最後の頁<br>35-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>有 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

〔学会発表〕　計10件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>感染・変容・復元――アメリカ演劇とパンデミックの諸相 |
| ３．学会等名<br>日本アメリカ演劇学会第11回大会シンポジウム |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>"Es como una telenovela"――Sarah Ruhlと現代アメリカ女性劇作家の「家政学」 |
| ３．学会等名<br>日本アメリカ演劇学会第10回大会シンポジウム |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>小さなデモクラシー――演劇におけるパーソナル＝パブリック＝ポリティカル＝パフォーマンス連続体 |
| ３．学会等名<br>日本アメリカ文学会第60回全国大会シンポジウム |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>分断の時代の連帯――アメリカ演劇における逆説 |
| ３．学会等名<br>日本英文学会九州支部第74回支部大会シンポジウム |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>ラティーノ演劇の存在感――『イン・ザ・ハイツ』にみる「ホーム」の再生 |
| ３．学会等名<br>日本演劇学会2021年度研究集会シンポジウム |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>構造化されるジェンダースケープと女性嫌悪のディストピア |
| ３．学会等名<br>日本アメリカ文学会関西支部第64回大会フォーラム |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>比較文学的母性論――Hawthorne、Faulkner、AtwoodからParksと現代日本文学へ |
| ３．学会等名<br>九州アメリカ文学会第65回大会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>ミュージカル研究序説――コミュニティ形成と人種表象から「読み直す」アメリカン・ミュージカル |
| ３．学会等名<br>日本アメリカ演劇学会第9回大会講演 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>なぜいきなり歌って踊りだすのだろう――アメリカン・ミュージカル研究概論 |
| ３．学会等名<br>九州大学言語研究会 |
| ４．発表年<br>2019年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>岡本　太助 |
| ２．発表標題<br>ブロードウェイ・ミュージカルにおける人種とコミュニティ |
| ３．学会等名<br>日本英文学会九州支部第72回大会招待発表 |
| ４．発表年<br>2019年 |

〔図書〕　計1件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>岡本太助、藤野功一（編著）他 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>開文社出版 | ５．総ページ数<br>397 |
| ３．書名<br>都市と連帯――文学的ニューヨークの探究 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|